

ほうでえ～

ありゃ～のう

周防大島町の話題



▶大勢の観客で埋め尽くされた会場（上）、大島商船高専「四境の役太鼓」（左下）、油田小児童による劇中クイズ（右下）

四境の役 150 周年でシンポジウム

四境の役150周年を記念して、6月4日、大島文化センターにおいてシンポジウムが開かれました。

約300人が詰めかけた会場では、油田小学校の児童によるクイズを取り入れた劇が披露され、来場者も積極的に回答し、会場は和やかな雰囲気。基調講演では一坂太郎氏（萩博物館高杉晋作資料室長）による「四境戦争はなぜ起こったか」と題して、ペリー来航から明治維新までの流れを、歴史の裏話を交えて講演されました。その後のパネルディスカッションでは、コーディネーターに大島商船高専の田口由香先生、パネリストには一坂太郎氏をはじめ永本隆道氏、新山玄雄氏を迎え、歴史の転換点ともいえる大島口の戦いで、島民や高杉晋作らが幕府軍といかにして戦ったか、様々な角度から紹介されました。

【お知らせ】 四境の役大島口の戦い戦没者合同追悼式
7月19日(火) 午前11時～ 会場：久賀総合センター

ハワイ移民資料館のデータ充実

日本ハワイ移民資料館にある移民者の検索システムが、官約移民者の約2万9千人のデータに加え、官約移民以降に移民会社を通じて渡航した約10万6千人のデータも検索できるようになり、6月22日、一般公開が始まりました。

これは、子孫らがルーツを探しに多数来館することから、町はデータベースを充実させようと整備に着手。外務省外交史料館所蔵の渡航者名簿をブックショット撮影し、ハワイ渡航者をデータ化することで検索が可能になったほか、渡航者名簿を忠実に再現した印刷物も整備しました。



▲渡航者名簿を検索する椎木町長



戦艦「陸奥」慰霊祭で平和を願う

73年前、伊保田沖で謎の爆沈を遂げた戦艦「陸奥」の殉難将兵慰霊祭が、爆沈の日と同じ6月8日、伊保田にある陸奥記念公園で営まれました。

慰霊祭は東和陸奥顕彰会の主催で毎年この日に行われているもので、全国から遺族や関係者約90人が参列。艦長や副艦長らの子孫をはじめ、乗組員で生存者の篠原喜一さん（長野県）も参列。篠原さんは海軍の歌「海ゆかば」を独唱され、また、油田地区の吟詠友の会のみなさんは詩吟を奉納するなど、犠牲者の冥福と、平和への祈りを捧げました。